

第8 企業会計決算の状況

県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、電気事業及び病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

1 水道事業の概況

営業関係では、北中勢水道用水供給事業（北勢系・木曾川水系：給水能力80,300 m^3 ／日、北勢系・三重用水系：給水能力51,000 m^3 ／日、北勢系・長良川水系：給水能力18,000 m^3 ／日、中勢系・雲出川水系：給水能力81,416 m^3 ／日、中勢系・長良川水系：給水能力58,800 m^3 ／日）及び南勢志摩水道用水供給事業（給水能力139,850 m^3 ／日）の2事業を運営し、平成29年度は県内18市町に対し、延べ74,547,341 m^3 の給水を行いました。

平成29年度の営業成績について、事業収益は8,976,080千円（対前年度比100.4%）で、内訳は、営業収益8,120,333千円（対前年度比101.3%）及び営業外収益855,746千円（対前年度比92.5%）であり、また、事業費用は8,575,776千円（対前年度比99.6%）で、内訳は、営業費用8,036,494千円（対前年度比100.8%）及び営業外費用539,283千円（対前年度比84.9%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額400,303千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業では、地震等の災害に備えるとともに水道用水の安定供給を図るため、北中勢水道用水供給事業及び南勢志摩水道用水供給事業において耐震化や老朽化対策などの施設改良を計画的に実施しました。

平成 29 年度損益計算書 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

(単位:千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	8,036,494	営業収益	8,120,333
原水及び浄水費	2,315,654	給水収益	8,099,994
配水費	679,812	その他営業収益	20,339
業務費	405,137		
総係費	395,120		
減価償却費	4,127,252		
資産減耗費	113,519		
営業外費用	539,283	営業外収益	855,746
支払利息	539,033	受取利息	2,458
雑支出	250	他会計補助金	52,342
		長期前受金戻入	799,663
		雑収益	1,282
当年度費用合計	8,575,776		
当年度純利益	400,303		
合 計	8,976,080	合 計	8,976,080

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

平成29年度損益計算書<P/L> (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位:千円、%(構成比))

借 方	貸 方
営業費用 8,036,494 (89.5%)	営業収益 8,120,333 (90.5%)
営業外費用 539,283 (6.0%)	営業外収益 855,746 (9.5%)
当年度純利益 400,303 (4.5%)	

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

貸借対照表<B/S> (平成30年3月31日現在)

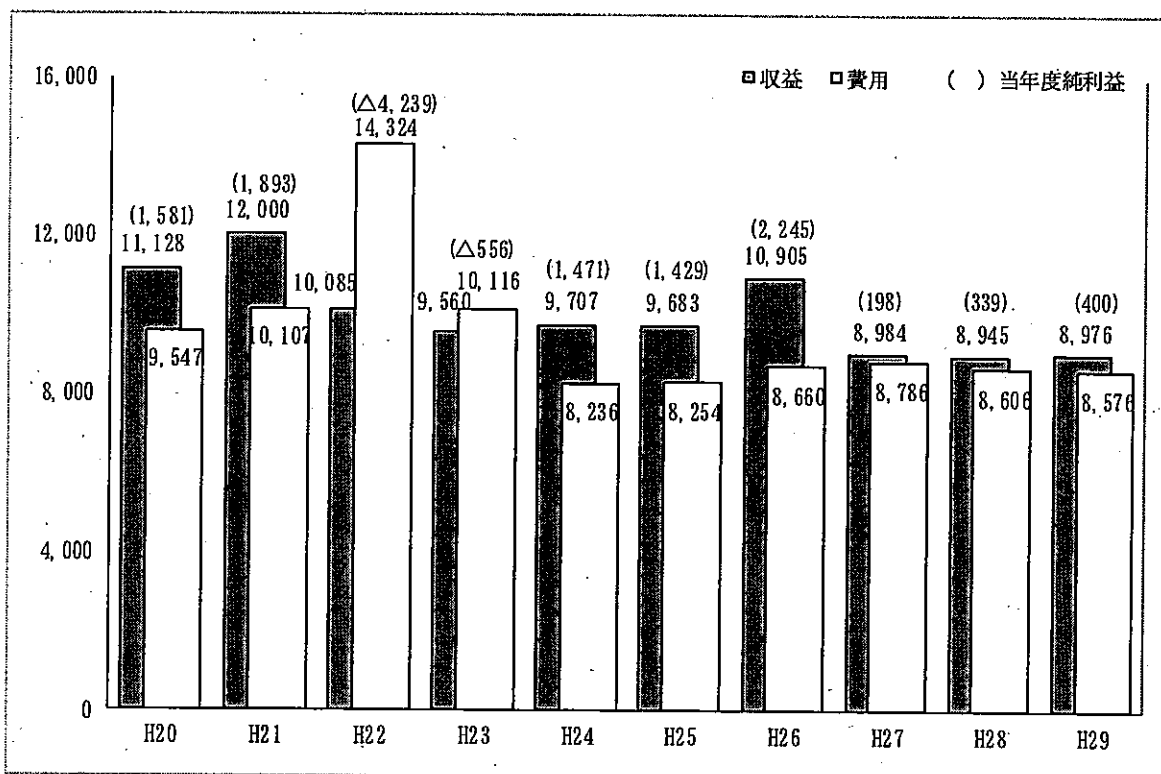
(単位:千円、% (構成比))

借方	貸方
固定資産 125,896,934 (90.7%)	固定負債 22,442,659 (16.2%)
	流動負債 3,439,734 (2.5%)
	繰延収益 23,036,270 (16.6%)
	資本金 88,225,461 (63.6%)
流動資産 12,855,266 (9.3%)	

剰余金
1,608,075 (1.2%)
資本剰余金 869,153
利益剰余金 738,922

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 730,670 m³/日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 13,870 m³/日）、松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 m³/日）の3事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、平成29年度においては105工場に対し、延べ209,058,408 m³の工業用水を供給しました。

平成29年度の営業成績について、事業収益は5,597,771千円（対前年度比98.9%）で、内訳は、営業収益5,181,929千円（対前年度比99.7%）及び営業外収益415,842千円（対前年度比89.3%）であり、また、事業費用は5,186,333千円（対前年度比102.3%）で、内訳は、営業費用4,930,895千円（対前年度比103.1%）及び営業外費用255,438千円（対前年度比87.9%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額411,439千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業では、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽化施設の更新・補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

平成29年度損益計算書（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	4,930,895	営業収益	5,181,929
原水及び浄水費	1,532,055	給水収益	4,993,067
配水費	216,007	その他営業収益	188,862
業務費	342,566		
総係費	301,643		
減価償却費	2,347,418		
資産減耗費	191,205		
営業外費用	255,438	営業外収益	415,842
支払利息	242,135	受取利息	1,323
受託工事費	12,254	他会計補助金	2,860
雑支出	1,049	受託工事収益	12,254
		長期前受金戻入	396,001
		雑収益	3,405
当年度費用合計	5,186,333		
当年度純利益	411,439		
合 計	5,597,771	合 計	5,597,771

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

平成29年度損益計算書<P/L> (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位：千円、% (構成比))

借方	貸方
営業費用 4,930,895 (88.1%)	営業収益 5,181,929 (92.6%)
営業外費用 255,438 (4.5%)	
当年度純利益 411,439 (7.4%)	営業外収益 415,842 (7.4%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

貸借対照表<B/S> (平成30年3月31日現在)

(単位：千円、% (構成比))

借方	貸方
固定資産 101,488,804 (91.6%)	固定負債 16,387,272 (14.8%)
	繰延収益 17,513,815 (15.8%)
流動資産 9,361,088 (8.4%)	資本金 73,091,797 (65.9%)
	剰余金 2,231,264 (2.0%)

流動負債

1,625,744 (1.5%)

剰余金

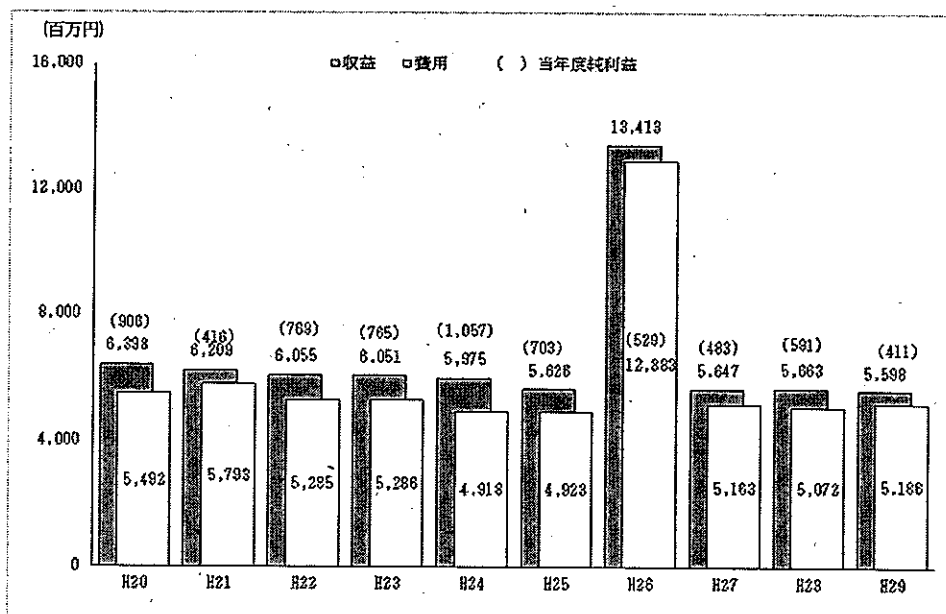
2,231,264 (2.0%)

資本剰余金 1,228,710

利益剰余金 1,002,554

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

3 電気事業の概況

RDF焼却・発電事業については、三重ごみ固形燃料発電所において、製造団体からRDF45,974トンを受け入れ、63,867,800 kWhの発電を行いました。

平成29年度の営業成績について、事業収益は1,379,831千円（対前年度比110.8%）で、内訳は、営業収益1,331,572千円（対前年度比116.3%）及び営業外収益48,259千円（対前年度比56.7%）であり、事業費用は2,032,219千円（対前年度比172.9%）で、内訳は、営業費用2,031,856千円（対前年度比173.0%）及び営業外費用364千円（対前年度比28.2%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額652,389千円が当年度の純損失となりました。

平成29年度損益計算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	2,031,856	営業収益	1,331,572
R&D 充電費	1,878,156	電力料	681,290
一般管理費	153,700	その他営業収益	650,281
営業外費用	364	営業外収益	48,259
支払利息	151	受取利息	1,972
雑支出	212	他会計補助金	770
		長期前受金戻入	41,515
		雑収益	4,002
		当年度収益合計	1,379,831
		当年度純損失	652,389
合 計	2,032,219	合 計	2,032,219

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

平成29年度損益計算書<P/L> (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位：千円、%(構成比))

借 方	貸 方
営業費用 2,031,856 (100.0%)	営業収益 1,331,572 (65.5%)
	営業外収益 48,259 (2.4%)
営業外費用 364 (0.0%)	当年度純損失 652,389 (32.1%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

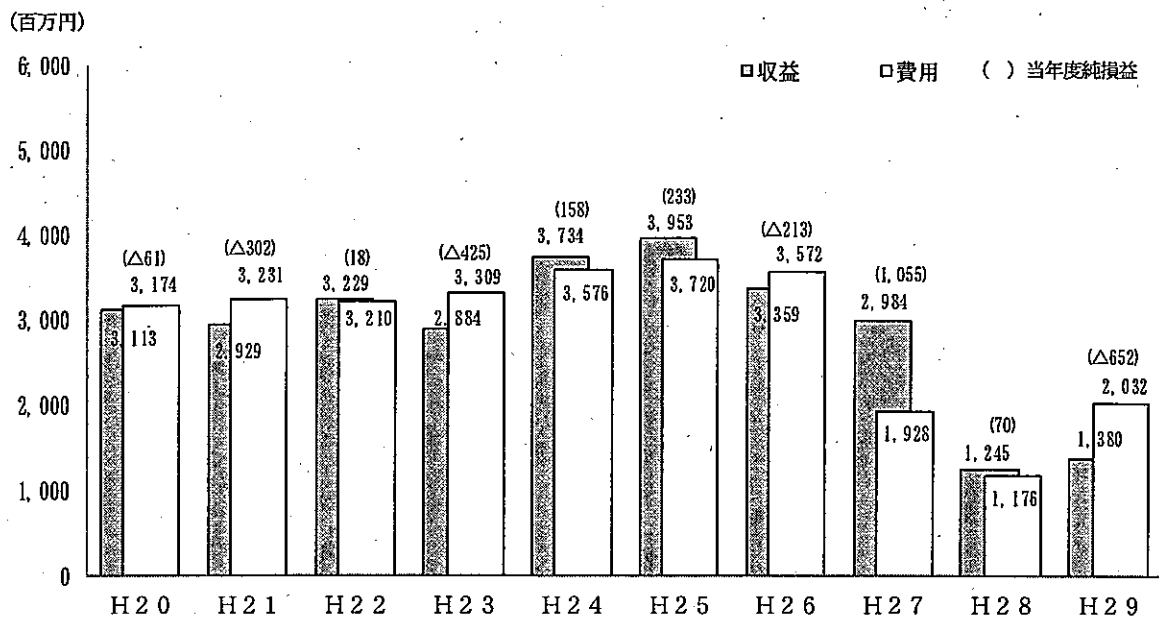
貸借対照表<B/S> (平成30年3月31日現在)

(単位：千円、% (構成比))

借方	貸方
固定資産 2,253,429 (19.3%)	固定負債 326,040 (2.8%)
	流動負債 241,601 (2.1%)
	繰延収益 114,017 (1.0%)
流動資産 9,410,427 (80.7%)	資本金 12,963,625 (111.1%)
	剰余金 △1,981,427 (△17.0%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

4 病院事業の概況

三重県病院事業においては、こころの医療センター、一志病院及び指定管理者制度を導入している志摩病院の3病院を管理運営し、県民の皆さんや地域に信頼され、かつ医療従事者にとって魅力ある病院づくりを進めながら、良質で満足度の高い医療サービスを提供しているところです。

平成29年度は、こころの医療センターにおいては、県内の精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を行うとともに、経営の健全化に取り組んできました。また、志摩病院においては、指定管理者である公益社団法人地域医療振興協会により、診療体制の段階的な回復を図りながら、志摩地域の中核病院としての取組を進めました。

これらの3病院の運営状況については、入院患者数が延べ194,924人(1日平均534.0人)、外来患者数が延べ154,642人(1日平均633.8人)で、前年度に比べ入院患者数は延べ4,060人の減少、外来患者数は延べ5,816人の減少となりました。

収益については、医業収益における入院および外来収益や医業外収益における一般会計からの繰入金が増加したこと、経常収益は5,336,525,962円となり、前年度に比べ3.0%減少しました。

また、費用については、医業費用において給与費などが増加した一方で、経費などが減少したこと、経常費用は5,306,407,438円となり、前年度に比べ1.6%減少しました。

その結果、これらを差引した経常損益は30,118,524円の黒字となりました。

なお、建設改良費については、こころの医療センターにおける吸収式冷温水発生機ほか改修工事や一志病院における受変電設備改修工事、志摩病院におけるIVR対応血管造影撮影装置(アンギオ)の更新等により総額424,680,314円を執行しました。

平成 29 年度損益計算書 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	5,058,106	医業収益	2,765,972
給与費	2,797,766	入院収益	2,111,428
材料費	258,467	外来収益	501,973
経費	1,434,451	その他医業収益	152,570
減価償却費	548,127		
資産減耗費	8,261	医業外収益	2,570,554
研究研修費	11,035	受取利息配当金	131
医業外費用	248,301	他会計補助金	162,951
支払利息及び企業債取扱諸費	120,466	長期前受金戻入	231,741
長期前払消費税償却	43,510	補助金	4,040
患者外給食材料費	248	負担金・交付金	1,904,145
雑損失	84,078	その他医業外収益	267,546
特別損失	0		
当年度費用合計	5,306,407	特別利益	0
当年度純利益	30,119		
合 計	5,336,526	合 計	5,336,526

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

損益計算書<P/L> (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

(単位：千円、% (構成比))

借 方		貸 方	
		医業収益	2,765,972 (51.8%)
医業費用	5,058,106 (94.8%)		
		医業外収益	2,570,554 (48.2%)
医業外費用	248,301 (4.7%)		
特別損失	—		
当年度純利益	30,119 (0.6%)	特別利益	—

貸借対照表<B/S> (平成30年3月31日現在)

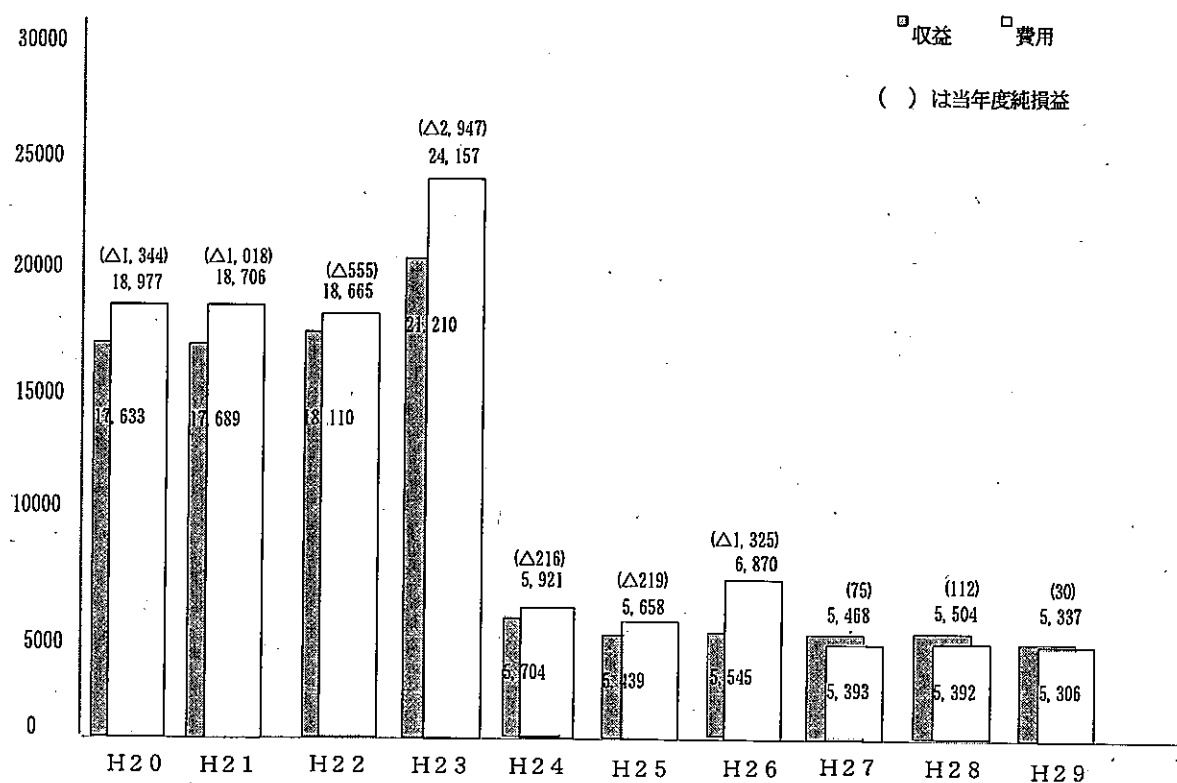
(単位:千円、%(構成比))

資 産		負債・資本	
固定資産	8,793,602 (85.8%)	固定負債	13,430,538 (131.1%)
		流動負債	1,290,549 (12.6%)
		繰延収益	3,005,855 (29.3%)
流動資産	1,450,317 (14.2%)	資本金	311,410 (3.0%)
		剰余金	△7,794,433 (△76.1%)
		資本剰余金	1,371,554
		欠損金	9,165,987

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移

(百万円)



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

